

# 津別町総合計画策定審議会主催

## 『町民意見交換会』を4会場で実施

津別町総合計画策定審議会（原田英機会長）は、「新しいまちづくり基本構想（案）」を公開し、今後の計画づくりに生かしていくために、意見募集の取り組みと並行し、町民の皆さんの声を直接聞くため、中央公民館会場をはじめ、活汲・本岐・相生の各集会所を会場に意見交換会が実施され、延べ166名の参加がありました。



〔原田会長を座長に意見交換が取り進められました〕

計画策定審議会は、昨年7月に町長から総合計画策定の諮問を受け、50人の団体等を代表される策定審議委員の皆さんとともに、『町は舞台、町民が主役』の計画づくりを進めてきました。この度、本町の潜在力を見極め可能性に挑戦することに重点を置いた基本構想（案）が出来上がりましたので、今後のまちづくりを進めていくにあたり、その主役となる町民の皆さんの意見を取り入れるために、概要版を全戸に配布し町民皆様の意見を募集しています。意見交換会は、町民の皆様の基本構想（案）の内容について理解を深めていただくとともに、意見をお伺いし、今後の計画づくりに生かしていくと考えていますので、日頃お考えのまちづくりに寄せる想いなどご意見をお寄せ下さい」とあいさつがされました。

引き続き基本構想（案）概要版の内容について、策定審議会事務局から趣旨説明があり、意見交換に移っていききました。

各会場で寄せられたご意見の概要は、次のとおりです。（意見のみ掲載）

### 【活汲農業研修センター会場（7月10日）】

津別は広く、市街地を中心に相生、本岐、活汲の四つに分散し、こじった状態の中で街並み形成をはじめ様々な問題がどうまとめて行くのかという課題があります。全体的に難しい面が多々あると思います。

教育部の「津別を学び楽しむ人づくり」の関係は、行政と連携しなければ進まない課題です。教育関係者と連携し進めていきたい。

活汲方面の構想が具体化して実際に取り組んでいくためには、関係する自治会の協議が必要だと思います。高齢化によって車の利用も制限が

でくるので、住民の足の確保なくして住民によるまちづくりや日常生活にも影響が出てきます。将来的にも住民の足の確保は大切な課題です。計画を実行するために、具体性が大事です。誰がどう進めるのかという計画をつくるべきです。高齢者や



〔活汲地区での意見交換会〕

女性、若者など全ての方を動かすための仕掛けが必要です。何をするのか。誰がするのか。どう進めるのか。を突っ込んで具体化して下さい。

第4次の計画の良いところは、第5次の計画に生かして下さい。

まちづくりは、「人材資源」の利用と「人材を掘り起こせるか」が鍵です。「人材資源」の利用によって全てが変わります。隠れ埋もれた人材を掘り起こし、さらに磨きをかけて行くことを是非突っ込んで下さい。

カヌーをしにチミケツ湖に来た人が、津別に住むことにつながることも考えられます。部門部門ごとの専門家がが必要です。物だけでなくに着目すべきです。

少数でも良いので計画の実行には仕掛けが必要です。何人かの核をつ

くりそこにごどう仕掛けて行くのが大事です。

### 【中央公民館会場（7月13日）】

一人暮らしの高齢者が安心して生活できるような課題の設定は必要だと思えます。子育て支援や健康づくりのことが触れられているが、保育所の給食のことを突っ込んでもらいたいと思えます。また、障がい者の住みやすいまちづくりを拾い上げてほしいと思えます。教育の関係では高校の存続も大きな課題です。構想の中でも積極的に触れて下さい。

3つの戦略プロジェクトは、町が先行して進めるべきものだと思います。大切なのは、どう自立してやっていくかです。財政問題は避けて通



〔中央公民館での意見交換会では松本コーディネーターによる意見提案等も行われました〕

ることの出来ない課題です。国の補助事業に飛びつき余計な借金をつくってはなりません。コンパクトシティということで、街中に公営住宅の建設というのも一つ考えられます。その際、新しい住宅を建てて家賃が上がるのと低所得者は入れなくなるので配慮が必要です。金をかければと良いというものではないと思えます。戦略プロジェクトがある程度具体化した段階で住民に知らせ、意見をもらうようにしてもらいたい。

### 【本岐農業研修センター会場（7月14日）】

本岐の当面の問題は、バス停を設置する場所が無く待合所がないことです。地域の力ではどうにもならない段階です。バス停を設置するために国が土地を購入するようなことをしなければならぬ状況にあり、バイパスの問題から7、8年も経っているのに解決していない問題です。行政の協力を願うものです。

チミケツについては、子どもの教育の場としても素晴らしいと思えます。昔、カラス貝を八番沢から仲間と野鳥公園に500個ほど移した経過があり、生息しているのであれば、チミケツの売りになります。生態系について煮詰めるなど追跡調査が必要で。また、釧路湿原にしかないと言われているキタサンショ



〔本岐会場に参加された町民のみなさん〕

ウオオもチミケツ湖に生息し、孵化していたことが確認されています。このことを計画の中で取り上げることも必要なことです。

プロジェクトで天然河川に戻すところがあるが、3年前にも氾濫しコンクリートがえぐられました。天然河川にすることに反対ではありませんが、農地が浸水しないようにしてもらいたい。

河川の関係では、災害が起きて復旧するときは土現が行うが、意見を聞いたり、聞かなかつたりです。沼沢の上流部の2箇所のところが一番氾濫するところです。地元の人々の意見を役場は把握し、役場が土現ときちんとした打ち合わせが必要です。

「町は舞台、町民が主役」ということで、50人の審議員の本気度を感じ

### 【相生公民館会場（7月21日）】

会長のあいさつの中でも事務局の説明の中でも、地域の活性化は、地域住民の主体的な取り組みによるもので、行政はそのサポート役という話であったが、特に相生という地域は高齢者が多く、後十年もするともっと深刻な状況になると言っ課題も

を真剣に考えているので、さらに検討を深めていただくことをお願いいたします。交通の関係では、車の免許を離さなければならぬ年齢となる方にとっては、通院や買い物も大きな問題です。ここに住んでいる人の明日を守るために、最低1日1往復のバスというか足の確保をお願いするものです。